

創刊30周年記念特集

平成22年 学校教育だより

December **12** 第307号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711 (内線622)

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて



“ろまんちっく色に染まりました”

写真提供／富士見特別支援学校

海中パラダイス

水谷東小学校 五年

佐野 陽

シノノケルで

たくさん泳いで生き物さがし

はずかしがりやのヒトデさん

はでなもようの小魚くん

波におされるやどかりくん

いじわるクラゲが

じゃまをするけど

ここは海中パラダイス

とっても楽しく夢のよう

また来よう

とっても楽しいパラダイス

「きんもくせい」アンケート結果から

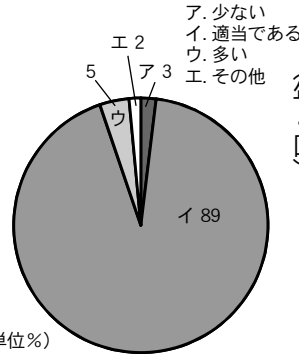
学校教育だより「きんもくせい」は、昭和55年10月20日に富士見市の理想とする教育を求め、保護者と教師、保護者と保護者、教師相互の交流を図りながら教育の課題を見つめ、平素の実践を通してよりよい教育の創造を目指し、創刊されました。

皆様方のおかげをもちまして、今年で30周年を迎えました。これを機にさらに皆様の期待にこたえられるよう、アンケートを実施しました。ご回答をお寄せいただいた結果をお知らせ致します。

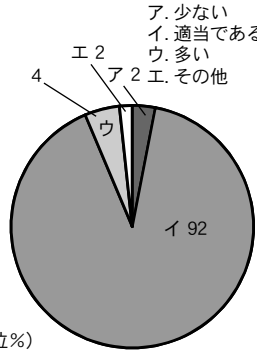


記念特集

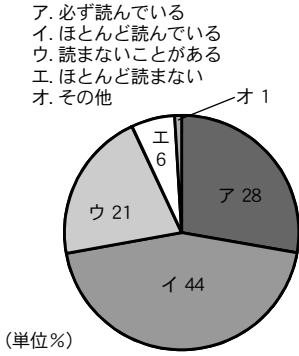
Q1 学校教育だより「きんもくせい」の発行回数はいくつですか？ (年4回)



Q2 ページ数(計8ページ)について



Q3 「きんもくせい」を読んでいますか？



「きんもくせい」への思い

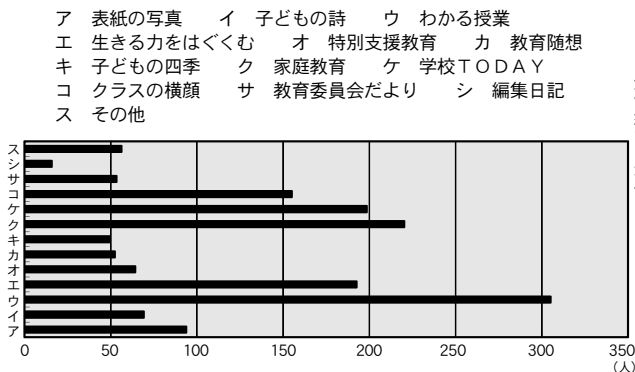
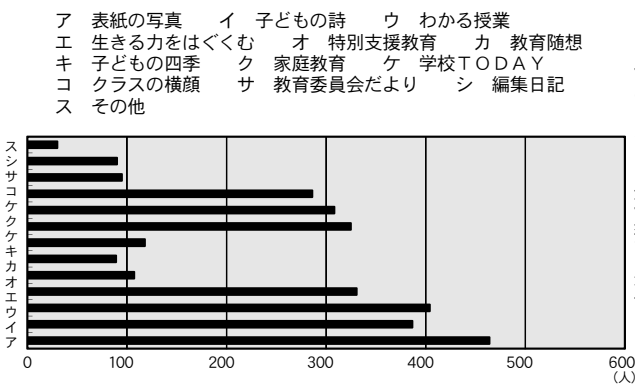
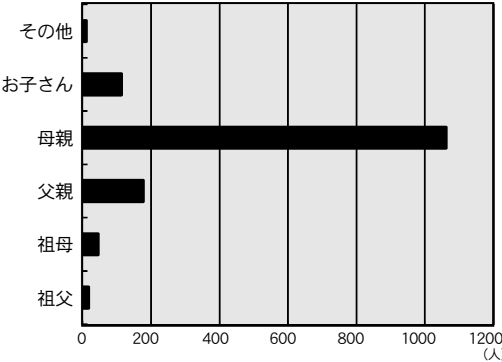
元きんもくせい編集委員 川添 知子

「きんもくせい」は『人間の尊厳の教育』の教育理念に基づいて発行されました。そして①わかる授業を中心に学校の取り組みを家庭・地域に理解してもらおう②地域の教育力を発掘する③家庭・地域との交流を図る、を柱に魅力的な紙面にするために意欲的に編集をしました。編集計画を立てるにも熱気ある議論が続きました。毎号編集内容が保護

者に伝わるよう真剣に取り組まれました。例えば、編集委員自ら授業をして、子どもたちが主体的に学習する姿を掲載するという画期的なものでした。それが現在に引き継がれ、学校現場の先生方の様子ともども私たちの変容を紙面に表すことが定着しています。また、地域の教育力を発掘し紹介するために、編集委員が直接訪ねてインタビューをすること

Q4 おもにどなたが読んでいますか？ (複数回答)

Q5 興味がある記事はどれですか？ (複数回答)



もありました。今では学校教育を支える支援活動として協力体制が整備されています。そして広場の要素を増やすために、各家庭の教育・躰等を紹介したり、家庭教育講座をシリーズ化したりして好評を受けました。正に「きんもくせい」が学校・家庭・地域のかけ橋になっているのです。私は、長期間「きんもくせい」に携わらせていただき、感謝の気持ちで一杯です。発行回数が減っても、精神・理念は生き続けるはず。ありがとうございます。そして今後の継続・発展をお祈り致します。

Q6 充実してほしい記事は？ (複数回答)

きんもくせい 創刊30周年

創刊三十周年を迎えて

富士見市教育委員会教育長 森元 州

「人間尊重の教育を求めて」を編集目標とし、昭和五十五年十月より発行してきました「きんもくせい」が、ここに創刊三十周年を迎えることになりました。この間、たくさんの皆様方にご指導、ご協力をいただきましたことに、厚く御礼を申し上げます。

社会情勢がめまぐるしく変化する二十一世紀を生きる子どもたちに、生きる力を育み心豊かで健やかな成長を促すためには、市民の皆様方に学

Q7 こんな記事があったらいいと思うものはなんですか。
ア. 学校に関すること イ. 家庭に関すること
ウ. 地域に関すること エ. 他市町村の傍聴 オ. その他

アに関すること
・学校の特色 ・力を入れて取り組んでいること ・子どもの様子
・授業の様子 ・行事 ・他校（市内）の様子

イに関すること
・小学校→しつけ、家庭での過ごし方、家庭での過ごし方、家庭学習
・中学校→成長期の変化と対応、家庭での体験談

ウに関すること
・防犯上の危険な場所 ・遊び場

エに関すること
・近隣の市町村での取り組みや課題

オに関すること
・子どもたちの一週間 ・児童生徒の作品 ・作品展の日程など

Q8 感想・要望

- ・他校の様子がよくわかり、子育てでたいせつなことを勉強できる。
- ・子どもの長所の伸ばし方など切り抜きし、保存している。
- ・学校生活に支障をきたしている子どもたちがスムーズに学校生活送れるように、「きんもくせい」を媒介にして問題を解決していけたらよい。
- ・子どもの詩では、年代による見方・感じ方を、学校TODAYでは、各学校の違いを、クラスの横顔では、先生と生徒のかかわりや成長が知ることができる。

《掲載してほしい記事や内容》

- ・親子で楽しめる身近な記事 ・毎号、全ての学校の記事を。
- ・子どもたちの心をとらえた、大人たちに対するメッセージ
- ・日々葛藤している「親としての在り方」→「ダメ」ばかりでは……。
- ・ざっくばらんな先生の声(1つの事例を詳しく、写真も多く)

編集部より

市内の全小・中・特別支援学校に在籍する保護者の方からの貴重なご意見を多数いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

Q1・2の「発行回数」や「ページ数」についての質問に関しては、適切であるというご意見が多かったです。Q3の「読んでいるか」という質問に関しては、「かならず読んでいる」方と「ほとんど読んでいない」方を合わせると約70%でした。しかしながら反対に、「読まないことがあ

きんもくせい

きんもくせいの花のすばらしい芳香が、富士見市の教育や文化にも、ただよぶことを願って、本紙が「きんもくせい」と名づけられました。



お答えになった方が約25%いらつしやいました。今後は、興味を持って読んでいただけの紙面作りにより一層努力してまいりたいと思います。Q4「誰が読んでいるか」という質問に関しては、「母親」という回答が90%を超えていました。関心を持って、お読みになつていただいていることをとてもありがたく感じました。更にご家庭でお母様以外の幅広い層の方にもお読みいただけるよう改善に努めます。Q5の質問では、子どもの様子がよくわかる記事に興味を持って読まれていることがわかりました。Q6の「充実してほしい記事」は、わかる授業に関する記事の充実を望まれているご意見が多く、学校の授業へのご家庭の関心の高さと期待の大きさを感じました。このアンケートをもとに今後、より一層の「きんもくせい」の紙面の充実に向け、努力してまいりたいと思います。

先人から学ぶ

水子貝塚資料館館長 根岸 悦雄

水子貝塚資料館では、歴史資料をもとにさまざまな体験事業に取り組んでいます。なかでも夏休み期間中に開催する「縄文体験」や月一回程度実施する『土曜おもしろミュージアム』は小学生を中心に多くの参加があり、人気の事業として定着しています。縄文体験は、縄文土器づくり・火起こし体験・縄文土器等を使って調理した料理の試食、そして夜には水子貝塚公園内に復元された縄文時代の



住居での宿泊等、古代の先人の技術・知恵を学んでもらうことを目的にさまざまな体験メニューを用意しました。市内のさまざまな学校の異年齢集団の中で参加した子どもたちは、最初不安と緊張の生活ではできない体験から何かを感じ、集団内で協調性を学びつつ、それぞれの個性を発揮していました。参加した子どもたちからは、事業に参加して「おもしろかった」「来年も参加したい」といった声が多く、主催者としてはうれしい限りです。

博物館には、地域の歴史・文化について広く普及していく役割がありますが、これらの体験事業を通して、教科書や参考書に掲載されるような歴史・文化の事実以外にも、厳しい環境の中で生きぬいた先人の強い意志と知恵、さらに心の豊かさを感じてもらいたいと思います。子ども時代にしかできない体験は将来の貴重な財産でもあり、きつと生きる力になると思います。資料館は、今後もそんなお手伝いのできたらと考えています。



富士見市立東中学校 3年
松下 尚子

11月2日、私達はキラリ☆ふじみにて第33回合唱祭を行いました。合唱祭には多くの保護者の方々や小学生が来て下さり、またプロの音楽家の方より独唱の指導・合唱の講評をいただきました。

今年は合唱祭が例年より早く、練習する時間も少ない

校内合唱祭

かったのですが、みんな協力してそれぞれ素晴らしい合唱を作り上げることができました。私達3年生にとっては今年が最後の合唱祭であり、中学最後の行事でした。本番の伴奏者の演奏や前に立つ指揮者の姿、たくさんの拍手や舞台の照明、そして自分たちの作り上げた合唱を、私達は忘れることはないでしょう。



豊かな心をはぐくむために

勝瀬中学校PTA会長 花谷 彰久

「向こう三軒両隣り」
このような言葉は、いつ頃から聞かなくなつたのでしょうか。私の幼少期は、子どもながらのいたずらをしていると、近所のおじさんやおばさんからよく叱られました。ですがそのおかげで、何かあれば近所の人たちと積極的にあいさつや会話ができたのです。今の環境はどうでしょうか。近所の人たちと積極的に関わ

りを持っていくのでしょうか。これは子どもたちではなく、私たちは親世代に注目しなくてはいけないと思います。子どもたちはいつの時代も、常に親の言動や行動を見ながら生活をしています。親が親として、積極的に近所づき合いや地域の活動に参画しなくては、子どもたちの豊かな心を育てることはできないと私は感じています。ですから、私は子ども

教育課題特集

生きる力を



もたれを通じて、親世代が手を取り合い、先生や地域の方々と連携を取ることが、子どもたちの環境をとともよいものにしていくものと確信しています。

私たち親世代が、親として子育てを通じ、多くのことを学び、成長していかなくてはならないのではないのでしょうか。

私は現在も、子どもたちとの関わりから多くのことを学びます。一人の人として、しっかりと子どもたちと向き合うことで、自然と会話が増え、笑顔が生まれます。人間は一

人では何もできませんから、未来ある子どもたちのためにも、親としてこれからも成長していくことこそが、子どもたちの豊かな心を育む第一歩です。



家庭教育

「準備」の大切さ

つるせ台小学校保護者 水口 知詩



我が家には三人の子供がいます。どの子も個性豊かで、のびのび育っており嬉しく思います。そんな三人にいつも伝えていることがあります。それは「準備」の大切さです。準備ができていない人は、成功する確率が高くないことをいろいろな場面を交えて伝えていきます。例えば、勉強にしてもそうですが、予習はまさに準備。復習はと言えば、これがまた新しいことを覚えるための準備なのです。運動にしてみれば、準備体操に始まり整理体操に終わりますが、準備体操はもちろん、整理体操についても次のパフォーマンスへの準備なのです。「早寝 早起き 朝ごはん」は、最近よく言われていますが、これら

もすべて準備だと伝えております。必要もない夜更かしをしているならば、早く寝て頭と身体を明日の準備にあてること。朝は早く起き、身支度を整え役割分担の家事をして、出掛ける準備をすること。一日のスタートのための朝食を摂り、エネルギーを補給し身体を準備をすること。これらは、三人の子どもたちが、就学前から行っている我が家の決まりごとであり、現在も当たり前のように行っています。

親として、何ができるか、何を伝えられるかをいつも試行錯誤しながら子どもたちと接しています。その中でも、気をつけていることがあります。それは、親の理想を押しつけ

ないことです。どうしても自分の夢や希望を子どもに託したくなるのですが、子どもの意思を尊重し、何を考え、どう行動するのかを自分で判断させるようにしています。自分で決断する習慣も非常に大切なことです。準備することも押し付けるのではなく、自分で決断させます。準備不足により経験する失敗が、その大切さをより実感することになるからです。甘い決断については、親として干渉したくなるのですが、公序良俗に反していなければ、じつと我慢して経験させることも親業だと自分に言い聞かせています。

三人の子どものおかげで様々な方と出逢い、様々な経験をさせてもらっています。楽しいこと、嬉しいこと、辛いこと、悲しいこと、どれも三人の子どもがくれた大切な宝物です。これからは、私自身が宝物を得るために、「準備」の大切さを実感していくことは、言うまでもありません。

いつでも今を楽しもう

針ヶ谷小学校学校応援団コーディネーター 杉山 由佳

何でも楽しめたら無敵だ。

子どもは誰でも、その才能があると思っている。けれど近頃の子どもは忙しい。楽しみを探しあてる暇もなく、色々なモノで溢れかえった中にいる。何でもあるのに、

「今日は楽しかったなあ。」

「明日が楽しみ。」

と思つて眠りにつく子は、どのくらいいるのだろう。そして騒いだりふざけたりしていても、ちつとも楽しそうじゃない表情を目にすると、何だか切ない気持ちになる。

針ヶ谷小では朝の読書タイムに、絵本の読み聞かせをしている。本を好きになるきっかけになつたらとても嬉しい。でもこの頃は、「楽しいこと」のひとつになるように、見守っている人がいるのを感じてもらう。「そんなことが大切な気がしている。」

心の栄養が、ただ一方的に与えられるばかりでは、さみしい。子どもたちの聞いている呼吸にあわせ、読みすすめるのは、読み手も一緒に楽しんでいけるかけがえのない時間

になつていく。

自分の知らない喜びや悲しみにもふれ、心を広げてほしい。一緒に聞いていても、みんな感じ方が違うのは当たり前なことかも知ってほしい。

そうやって大切にされていることや、人と違つてもいいんだとわかつてもらえたら嬉しい。その自信はきつと子どもたちの目を輝かし、思いもかけない楽しみを見つくる。「無敵の天才」へと変身する鍵なのかもしれない。その手助けができたと思つていく。



人間尊重教育推進

わたしたちのまちに 育てよう 人間尊重の心 広げよう

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」

と呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのであります。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとって家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されておりますのでご活用ください。

家庭、学校・行政が力を合わせ、一体となって子どもたちの健全な育成に努力していきましょう



大きい！「学校ファーム」
(南畑小学校)



がんばれ、もう少し！体育の授業
(諏訪小学校)

家庭における人間尊重教育十か条

- 一 人のいのちを大切にしよう
- 二 いのちある動物、植物をいたわりましょう
- 三 健康を大切にしよう 正しい食事と適度な運動からだづくりにつとめましょう
- 四 おはよう、おやすみ、たたいま、おかえりのことばが聞こえる温かい家庭をつくりましょう
- 五 ありがとう、ごころうさまの素直なことばで感謝の心を育てましょう
- 六 家族の仕事を分担しよう
- 七 家族の一員としての役割をはたしましょう
- 八 人の喜びを喜びとし、人の心の痛みを分かちあい助けあっていきましょう
- 九 やさしさ、いたわりの心を大切にしよう
- 十 おとしよりの方々に学びましょう
- 十一 八 どんな物も人の汗と力でできることを知り物を大切にする心を育てましょう
- 十二 九 正しくやさしいことばでつづつまれた明るい家庭をつくりましょう
- 十三 十 正しいことをつらぬく強い心で
- 十四 勇気ある行動をとりました

人間尊重わたしたちの合言葉

なやんだら 相談してよ 仲間でしょ

(南畑小学校 5年 吉野 まりん)

思いやり 思うだけじゃ いけないよ

(南畑小学校 5年 桶田 千紘)

たすけあい 未来にはばたく 第一歩

(ふじみ野小学校 5年 中垣 七海)

あいさつは 心をつなぐ 糸でんわ

(つるせ台小学校 5年 鶴野澤 拳斗)

ネットから 書かれたきずは 消えぬもの

(富士見台中学校 1年 五十嵐 真美)

あいさつで 心がつながる 友の声

(本郷中学校 1年 横山 歩美)

やめようよ 心にささる その言葉

(勝瀬中学校 1年 橋ヶ谷 雄也)

入間郡市同和对策協議会
入間地区人権教育推進協議会 応募標語より
富士見市人権教育推進協議会



みんなで協力！運動会
(みずほ台小学校)



PTAと共に！PTAバザー
(西中学校)

人間尊重・私の主張

人権問題について



本郷中学校 一年
黒田 亜美

いじめ・差別と自分の関わり

自分には関係ないと思っっているか、止めたら自分がいじめられると思っっているのだと思っます。

これから大人になるにつれ、いじめに遭遇することは、たくさんあると思っます。その時には、怖がったり、見過ごしたりしないで、ちゃんと注意をしていきたいです。そして、少しでも、いじめの数が少なくなればいいなと思っます。

そして、もう一つの問題。それは、差別です。差別は、いじめの原因の一つだと思っます。国籍が違う、言葉が違う、障害をもっている。人は、こんな自分勝手な理由で、差別をし、自分よりも地位の低い人として考えてしまっうのです。

私の父は、病気でしゃべることができず、ある機械を使ってしゃべります。そして、歩くこともできず、外に出ることは、ほとんどありません。外に出る時は、車いすを使っます。そんな時、周囲の人は、冷たい視線で父を見てくるのです。これも、差別というのではないでしようか。

誰だって一度は、こんな経験をしたのではないでしようか。障害をもっている人が、一生懸命話したり、何かをやりとげようとしてる時、かげで笑ったり、バカにしたりすることが。これは、障害者に対する、差別だと思っます。

人は、自分よりも弱い人をいじめたり、差別したりします。でも、いじめられたり、差別されたりしてる人は、それに負けないよ

うに必死に努力しようと思っます。だから、いじめや差別は、人の気持ちの分らない、心の弱い人がすることなのです。

いじめをする人は、人の心の痛みや、心の傷の深さが分からず、いじめをしつづけ、最終的には、自殺に追い込むこともありまっす。そして、いじめをしてる人ほど、自分がいじめられると、どうすることもできなくなるのではないでしようか。それは、いじめられる側になって初めて、自分の弱さが分かるからだと思っます。

世の中には、なぜいじめや差別があるのでしようか。いじめや差別がなくなれば、世界は、ほんの少しだけ、平和になるのではないでしようか。私は、この作文を書いて、改めてそう思っうことができました。

一人一人がいじめや差別の本当のつらさを知り、やめよう、またはやめさせようという心をもてば、気持ちがあし変わります。そして、それを行動にうつせば、さらに気持ちを变えることができます。そうやっつて、少しづついじめや差別がなくなっっていくけがいいなと思っます。誰もが、人の気持ちのわかる心の優しい人間になることを、私は心から願いまっす。

この作文で、自分の気持ちを、たくさん話っすことができました。そして、私と同じ気持ちをもつ人が、一人でも多くなったら、私はとてもうれいいます。

最近よくテレビで、いじめをテーマにしたドラマを見ることが増えてきました。小さい頃は、いじめなどは、「自分に関係ないこと」そう思っっていました。でも、成長した今、いじめの本当のつらさ、孤独、そして、自分といじめの関わりが、分かってきました。そもそも、いじめが始まる理由は、本当に小さな理由。地味、自分との相性が悪い、気に入らない。それは、人それぞれの事なのに、どうして人という生き物は、同じ気持ちをもつ人を集め、いじめをするのでしようか。いじめをしてる側は、「ちょっとした遊び」そう考えて、軽い気持ちでいじめる人も多いと思っます。でも、いじめられる側の気持ちは、そんなに軽いものではないと思っました。小学校の時、クラスの中でいじめがありました。自分はいじめていない、見てるだけだと思っい、何もいませんでした。しかし、非行防止教室に参加し、見てる人のことを傍観者といい、傍観者も同罪だということを知りました。いじめを注意しない人は、

教育委員会だより

◆富士見市高等学校等入学準備金利子補給のご案内

この制度は、高校、専修学校、専門学校、短期大学及び大学に入学予定者の保護者の方が、日本政策金融公庫の教育一般貸付（入学資金）を受けた場合に、その返済利子の一部又は全部を助成し、経済的負担の軽減を図るものです。

◇利子補給対象者

- (1) 市内在住の方
- (2) 市税を滞納していない方
- (3) 日本政策金融公庫からの教育一般貸付の融資（入学準備金融資）を受けている方

◇利子補給額

利子補給金は、融資額の内70万円以内の額を限度とし、融資を受けた利率で、返済期間5年以内、元利均等月賦償還、据置期間なしで計算した利子の額を市が補助をする。

◇利子補給期間

5年以内

◇申請手続き及び問合せ

教育委員会教育総務課まで（富士見市立中央図書館2階）
TEL 049-251-2711（内線611）

※教育一般貸付の融資に関する問合せは、日本政策金融公庫へ

- ・ 日本政策金融公庫 川越支店
〒350-1123
川越市脇田本町14番1（日本生命ビル5階）
電話（お申込み相談）049-246-4171

平成22年度埼玉県児童生徒美術展
富士見市内展のご案内

☆公開日程 1月21日(金) 9:00~17:00
22日(土) 9:00~17:00
23日(日) 9:00~17:00
24日(月) 9:00~15:00

☆会場 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ
小学校・特別支援学校：展示・会議室
中学校：展示室



大きな成長

ふじみ野小学校教諭 大谷 文人



「先生、今日も靴箱のかかと、そろっていました！」
子どもたちからの報告。五年二組の自慢は『向上心』。十一月を迎え、子どもたちはその持ち味を発揮し、大きく

成長していると感じている。運動会の組体操では自分たちで話し合い、練習でうまくいかなかった技も本番では見事に成功させていた。林間学校では「自分たちで話し合っ

て、自分たちで話し合っ

「アイヤーを成功させていた。充実していた。」「楽しかった。」一つの行事を終えた後、そんな感想があった。だが、二組の子どもたちはその後、「この経験を生かして次

ともっと成長したい。」と思う。出張でクラスを空けるのが不安だった四月。今では、次の日に「皆頑張っていました。」と平気な顔で言う。そんな姿を見るととても嬉しくなる。

さて、もう少しで音楽会。今では練習後に「先生、まだまだ声は出ると思います。」そんな言葉が自然に出てくる。子どもたちのキラキラした目を見るときは、私はずっと成長していきたくて。

編集日記

(前号からの続き)

『イタリアとオランダの試合を見ると、戦術的には日本とそっくり同じ。何が違うかというところ、詰めるとき、日本人は二メートルぐらい手前まで止まるけど、イタリア人は取る気でスパッと取りに行く。取れないけれど相手が怖がりながらプレーするからミスが呼び込める。岡田前代表監督の言葉です。これは日本人の若者が学校やサッカーのコーチから教えられすぎていて頭でかちかちになっているのではないかと。もともと根元的な強さがないとだめではないかという趣旨の中で述べてある文章でした。ではどうすれば根元的な強さが身に付くのだろうか？私が思うにはハングリ―精神ではないかとも思うのだが、岡田氏によれば、意外にも、一番大切な思春期に友人と遊んだり、喧嘩をしたりの社会が必要で、その中で友情とか仲間意識を培うことが根元的な強さを求める意欲を醸成していくのではないかと述べています。(保坂)